

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-730	A-153	22-011	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Changes in alcohol consumption and the risk of cardiovascular diseases in patients with depression who had not consumed alcohol: A nationwide cohort study アルコールを摂取していないうつ病患者におけるアルコール摂取量の変化と心血管疾患のリスク 全国規模のコホート研究			
執筆者			
Kim M, Kim H, Han K, Yoo J, Yang K, Jeon HJ.			
掲載誌			
J Psychiatr Res. 2022 Nov;155:458-464. doi: 10.1016/j.jpsychires.2022.09.022.			
キーワード			PMID
アルコール、循環器疾患、うつ、脳梗塞、心筋梗塞			36183599
要旨			
<p>目的: 一般集団におけるアルコール摂取と心血管疾患 (CVD) の関連については多くの研究がなされているが、うつ病患者における検討は少ない。そこで、本研究は、アルコールを摂取していないうつ病患者におけるアルコール摂取量の変化と CVD の関連を検討する。</p> <p>方法: 韓国の全国医療記録データベースを用い、新たにうつ病と診断され、うつ病診断後 2 年以内にアルコールを摂取していなかった 375,710 人を特定した (時点 1)。対象者を、時点 1 から 2 年以内のアルコール摂取状況に基づいて 3 群 (非飲酒者、軽度・中等度飲酒者、多量飲酒者) に分類した (時点 2)。これらの対象の心筋梗塞 (MI)、脳梗塞、脳卒中などの CVDs の発症を追跡調査した。</p> <p>結果: 非飲酒者 329,802 人、軽度から中等度の飲酒者 43,659 人、重度飲酒者 2,249 人を特定した。非飲酒者に比べ、多量飲酒者では、MI (aHR、1.41 ; 95%CI、1.08-1.83)、虚血性脳卒中 (aHR、1.49 ; 95%CI、1.12-1.99)、複合 CVD イベント (aHR、1.48 ; 95%CI、1.21-1.80)、および全死因死亡率 (aHR、1.38 ; 95%CI、1.13-1.68) でリスクの上昇がみられた。</p> <p>結論: うつ病の診断後に大量飲酒を開始した人は、禁酒を維持した人と比較して、CVDs および全死亡のリスクが上昇した。これらのデータは、臨床の場でうつ病と診断された人に対するアルコール摂取制限の必要性を強調している。</p>			